

令和3年度公益社団法人氷見市医師会事業計画

2019年12月に中国湖北省武漢にて発生した新型コロナウイルス感染症は急速に世界中に広がり、2021年2月には全世界の感染者は11,000万人、死亡者は250万人を超えました。幸いにも氷見市の感染者は少なく、クラスターの発生や医療体制の逼迫等は見られませんが、変異ウイルスの感染拡大等、今後も気を緩めることはできません。

新型コロナウイルスの収束なしには何事も前へ進められない中で、予防接種体制の構築と実施が氷見市医師会にとっての喫緊の課題です。金沢医科大学氷見市民病院が基本型接種施設として中心となり、その他の3病院および医師会が協力してワクチン接種を遂行せねばなりません。医師会の皆様には集団接種におけるマンパワーの提供およびサテライト型接種施設として自院でのワクチン接種に是非とも御協力をお願い致します。

このパンデミックで、デジタル化やICTの推進の必要性も感じました。医師会が処理すべき情報量の膨大さと求められる処理スピードは郵送やファックスでは追いつかないレベルになってきています。各診療所においてもHER-SYS、G-MIS、V-SYSはもとより、各種補助金の申請等にICTの利用が不可欠となって、戸惑われているかと思えます。

地域包括ケアシステム・在宅医療においても診療のオンライン化等でICTが役立つ可能性があります。超々々高齢社会の氷見市は今後も高齢化率が上昇し、単身世帯、老老世帯および認認世帯が急増してきますが、疾病構造の変化に伴う医療・介護の需要増大には、地域包括システムの一層の整備・充実に加え在宅医療の必要性が高まることは必至です。医療従事者の高齢化が進む中で若い医師の在宅医療への参入が望まれるのは勿論ですが、ICTの活用も一助となりえます。

氷見市医師会としてIT利用を前向きにとらえたいと思いますが、まずは診療工房の活用を促し、各医療機関においてはデジタル環境の整備やICTに慣れることをお願いします。

今後も会員の一層のご理解とご協力をお願い致します。

1. 医の倫理の昂揚

「日本医師会綱領」と「医の倫理綱領」に従い、医師として高い倫理観と使命感を礎に、人間の尊厳が大切にされる社会の実現を目指す。

2. 生涯教育の充実

学術講演会や各種研修会の主催・後援により情報提供や生涯教育の場を提供する。必要性があれば WEB 講演会とする。

3. 広報活動の推進

「氷見市医師会ホームページ」にて市民への医師会活動の公開や、タイムリーな医療情報等の提供を心掛ける。また「ホームページ」上や「ひみ医師会報」で、会員間の情報伝達・共有を図る。

4. 地域包括ケアシステムの推進

氷見市包括支援センター等と協力して病診連携・診診連携・多職種連携を進め、信頼されかつ効率の良い医療や介護体制の構築に努める。

- (1) 「氷見市医師会在宅医療支援センター（平成 25 年設置）」を中心に、多職種との連携を深めて、氷見市の在宅医療の充実と効率化に取り組む。

ICT（診療工房）は既に氷見在宅医療連携会、金沢医科大学氷見市民病院、中村記念病院、院外薬局（2 施設）、訪問看護ステーション（5 施設）および居宅介護支援事業所（12 施設）を繋いでいる。「氷見在宅医療連携会」では看取り患者の情報交換を行い、また多職種間では終末期患者や不安定な患者の情報共有等に ICT を活用する。

金沢医科大学氷見市民病院をはじめとする高岡医療圏の基幹病院へは、氷見在宅医療連携会の「在宅患者受け入れ状況」を毎月配信して、入院患者の在宅導入の参考にしてもらおう。特に金沢医科大学氷見市民病院とは「退院患者の在宅導入」の打診、「在宅看取り患者の急な入院希望」の打診に ICT を活用し、病院と在宅の移行を円滑にする。

- (2) 訪問看護ステーションが増える中、「氷見訪問看護ステーション」は意見交換や交流の場を提供して氷見市の訪問看護レベルの維持、向上に貢献し、自らも各種研修会に参加し自己研鑽に努める。「氷見市連携ノート」や ICT の活用においてもリーダー的役割を担う。
- (3) 市民の在宅医療に関する理解を深めるために、在宅医療推進市民フォーラム「ずっと家で過ごしたい」を開催する。
- (4) 「氷見認知症研究会（平 19 年発足）」の活動を継続し、「相談医」や「サポート医」と協力して氷見市における認知症対応力の維持、向上を目指す。多職種を含めた研修会や講演会を開催する。

5. 地域医療保健活動の推進

委託事業として住民健診事業、がん施設健診事業、定期予防接種事業、インフルエンザ予

防接種事業、学校心臓検診事業および休日当番事業を継続し、市民の健康啓発と健康寿命の延伸を目指す。

氷見市学校保健会、氷見市教育委員会等と協力しながら、園医や学校医として児童生徒の心身の健康課題に取り組む。

産業医として産業保健活動に取り組む。

さらに氷見市行政や高岡厚生センター等の各種協議会に参加し、氷見市はもとより高岡医療圏での協力・連携を目指す。

6. 広域災害・新型コロナウイルスへの対応

地球の温暖化や社会のグローバル化は、感染症の流行地域の拡大や新興感染症・再興感染症をもたらし、大規模自然災害が頻発している。

氷見市の半分は志賀原発の UPZ（発電所から概ね 30km 以内）に含まれ、有事の際には医師が中心となって安定ヨウ素剤の配布を担う。今後も多くの医師に原子力防災訓練に参加していただき、危機管理意識を維持してゆく。「大規模災害時 氷見市医師会初動対応マニュアル」、「大規模災害時 氷見市医療機関初動対応マニュアル」は既に配布されており、災害医療に関する研修会も含め、会員には常より再確認を促す。

新型コロナウイルス感染症の診療・検査体制は診療所でもできるだけ整備し、金沢医科大学氷見市民病院や高岡医療圏 PCR センター等と協力していく。ワクチン接種は金沢医科大学氷見市民病院に基本型接種施設として中心的役割を担っていただき、他の病院や診療所はサテライト型接種施設として個別接種に協力する。集団接種においてはマンパワーの提供に協力する。